

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2019年2月12日

【2019年2月2日～2019年2月8日までの推移】

【1】先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに下落しました。また、2年国債金利は上昇しました。ボルソナロ大統領の退院が遅れ、年金改革法案の推進が停滞していることが嫌気されました。

年金改革法案は2月1日（現地）の議会再開早々に提出されるとみられていましたが、ボルソナロ大統領の手術後の回復が遅れている（大統領選時の刺傷事件後に取り付けた人工肛門を取り外す手術）ことから、具体的な内容がまだ公表されていません。

具体的な内容が明らかにされない中、年金改革法案の規模縮小の観測が報じられたことや、一部下院議員から年金改革法案の早期承認について否定的な見通しが示されたことなどから、ブラジル金融市場は軟調な推移となりました。

経済指標に関しては、1月のIPCAインフレ率やサービス業PMI（購買担当者指数）が発表されました。1月のIPCAインフレ率は前月・前年比ともに市場予想を下回り、引き続き足元のインフレ率が低位で安定していることが示されました。また、サービス業PMIは先に発表された製造業PMIと同様に前月から上昇し、製造業・サービス業・コンポジット（製造業とサービス業の複合）の3指標すべてで景況感の改善と悪化の分岐点である50を上回っています。その他、ブラジル中央銀行からは政策金利が発表されましたが、こちらは事前の予想通り6.5%で据え置かれました。

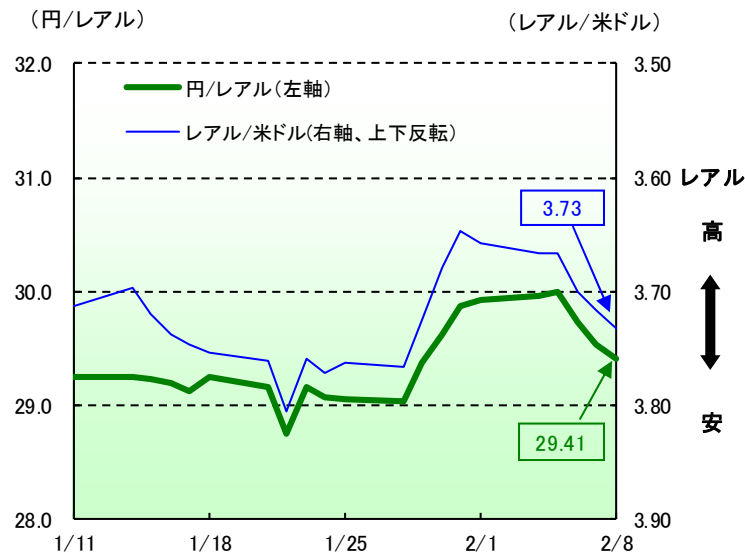
【2】今週の見通し

今週は、小売売上高や経済活動指数などの経済指標の発表が予定されています。

年金改革法案の内容がまだ公表されないことや、議会が再開されたことで年金改革法案をめぐる攻防が活発化していることから、足元のブラジル金融市場はボラティリティが高まっています。年金改革法案についてはボルソナロ大統領の復帰を待って提示されるとみられていますが、内容が明らかにされた後も、その議論の進展によってブラジル金融市場は左右される展開が続くと考えます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

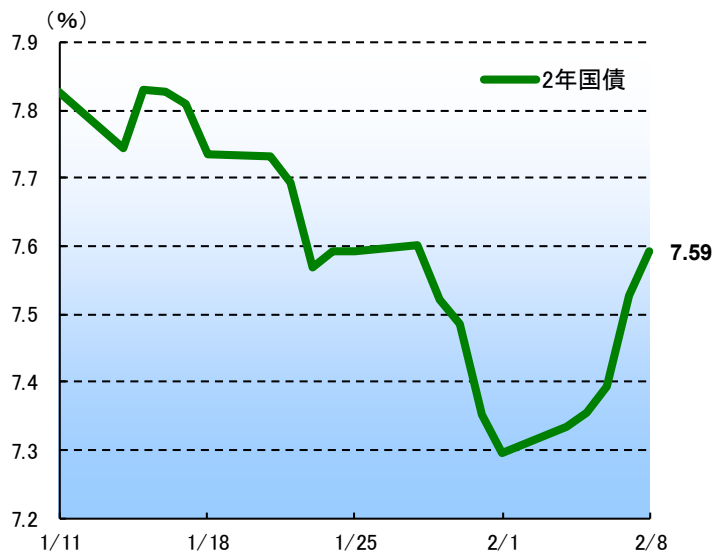
（2019年1月11日～2019年2月8日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

（2019年1月11日～2019年2月8日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>